



はじめのマンガ……………4

1 いまある食料危機

拡大している世界の飢餓……………8

栄養不足で命を落とす子どもたち……………10

日本で食品価格が上昇……………12

2 食料危機をつくりだしているもの

武力紛争が食料危機をつくりだす……………14

気候変動が拡大させる食料危機……………16

世界の穀物は足りている!?……………18

国境を越えて取り引きされる穀物……………20

食用にされない穀物……………22

世界の食料の3分の1が廃棄されている……………24

3 かたよって存在する食料

「豊かな食生活」を楽しむ国ぐに……………26

食料のかたよりが生む飢餓と肥満……………28

4 日本にもある食料不足

目に見えない食料不足……………30

子どもの栄養不足……………32

5 世界に依存している日本の食料

日本人の主食……………34

肉や魚の半分は輸入……………36

さまざまな食料の輸入……………38

食料自給率という見方……………40

調べてみよう・話し合ってみよう

……………42

あとがき 食卓は世界につながっている

国谷裕子……………44

さくいん……………46

かくだい
拡大している世界の飢餓

「食料危機」という言葉を知っていますか？ 食料危機とは、食料不足が人間の生存をおびやかすほど危機的な状態になっていることをいいます。現在、人口の増加、気候変動による異常気象、水不足など、これから確実に地球を襲ってくるさまざまな問題によって、近い将来に世界的な食料不足、深刻な食料危機がやってくるだろうと予測されています。わたしたちは、その危機について正しい知識を身につけ、自分たちだけでなく地球全体で危機を乗り越えられるよう行動していかなばなりません。

アフリカやアジア、中南米などの多くの貧しい国々は、すでに食料不足が広い範囲に広がって

き が
飢餓・食料不安の段階

き
飢きん（IPCフェーズ5）

1万人に2人以上が餓死。人びとのカロリーは極端に不足し、人口の30%以上が急性栄養不良。20%の家庭が極端な食料不足。

き が し ぼう
人道的危機（IPCフェーズ4）

極端な食料不足で飢餓による死亡のリスクが急速に高まっている状態。人口の15～30%が急性栄養不良。

きゅうせい
急性食料不安（IPCフェーズ3）

最低限の食料を得るために必要不可欠なすべてのものを手放す状態。得られる食料は限られ、人口の10～15%が急性栄養不良。

しょとく い じ
食料不安（IPCフェーズ2）

所得を維持できない状態にあり、食事は1人1日あたり必要最低限の2100キロカロリー程度。人口の5～10%が急性栄養不良。

じょうたい
食料が十分にある状態（IPCフェーズ1）

安定した収入を得て1人1日2100キロカロリー以上の量と質の安定した食事ができている。栄養不良は人口の5%未満。

「総合的食料安全保障レベル分類（IPC）」と呼ばれる食料危機に関する分類です。国連世界食糧計画（WFP）ほかの機関が世界基準として使っています。

き が

て、国際的な食料援助によってかうじて飢餓をしのいでいる状態にあります。2022年4月、国連は、新型コロナウイルスの世界的流行によってふくれ上がった世界の飢餓人口は、ロシアのウクライナ侵攻によって今後さらに拡大するだろう、世界は第2次世界大戦以降最大の食料危機に直面していると警告しました。食料危機は、人口が増加し気候変動や食料システムの機能不全などによって世界的に食料が不足してしまう近未来の問題であると同時に、現在の国際社会が抱えている人道的な問題でもあるのです。

【ことば】 飢餓

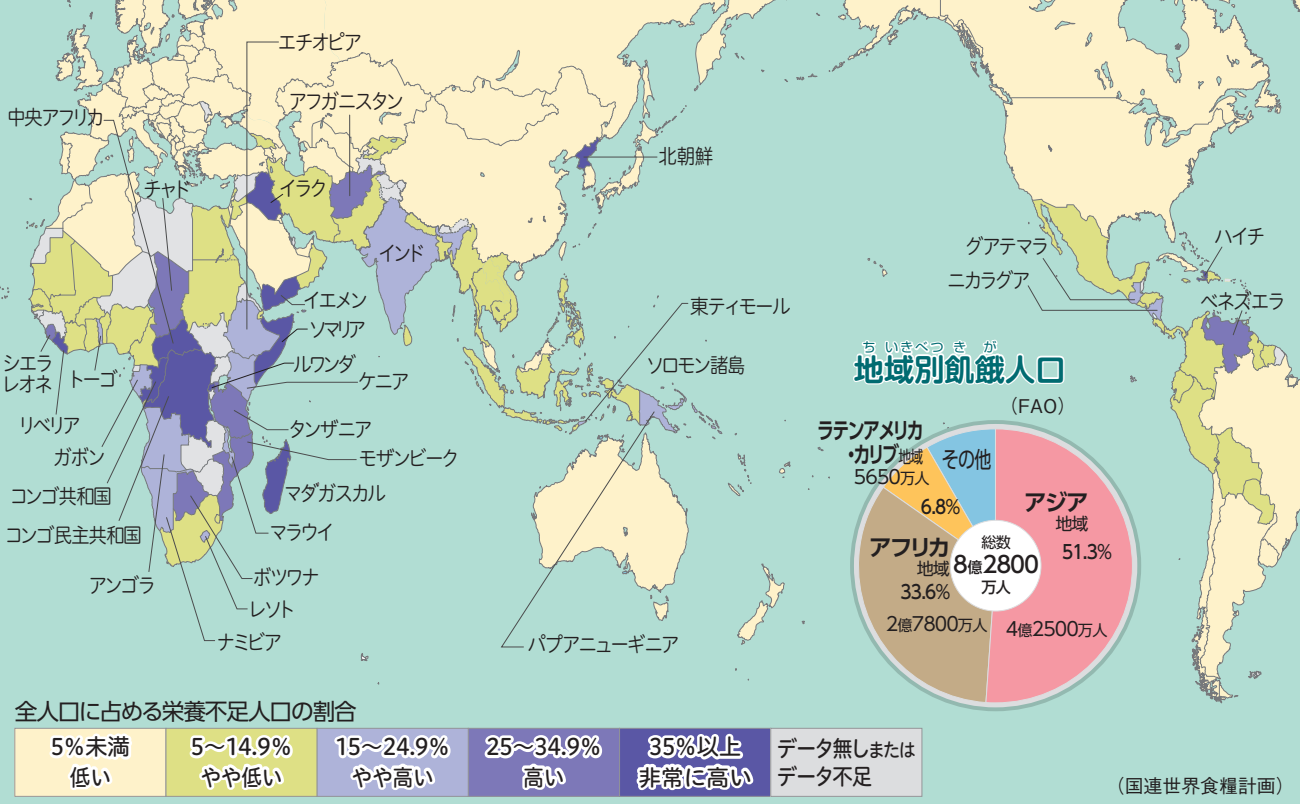
「飢餓」とは、食料が十分でなく健康的な生活に必要な栄養やエネルギーを得られない慢性的栄養不足状態をいいます。食料不足が深刻になるにつれて、食料不安、急性食料不安、人道的危機、飢きんなどと呼ばれることがあります。そうした状態にある人たちの多くは、内戦や紛争、気象災害などのために身近に食料がなくなっている人たちですが、身近に食料があっても買うお金がなくて食料不足になっている人もいます。



き が
●飢餓人口8億2800万人

2022年7月、国連は、飢餓の影響を受けている2021年の世界の人口が8億2800万人になったと報告しました。この年の世界の総人口78億7500万人の10.5%にあたります。その人数は、新型コロナウイルスの世界的流行以前からは1億5000万人増加しているとしています。ということは、世界の飢餓人口は、新型コロナウイルスの流行以前から、7億人近くいたということです。

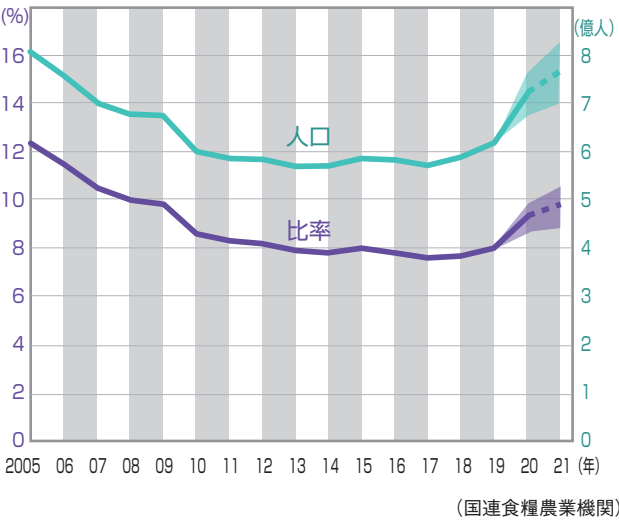
ハンガーマップ 2021 国ごとの栄養不足人口の割合を色分けして表した地図。世界の飢餓状況、世界の格差がひと目で分かります。



2015年に国連総会で採択され、現在世界各国で取り組まれている「SDGs（持続可能な開発目標）」は、2030年までにあらゆる形態の飢餓と食料不安を終わらせることを目標の1つにかけられています。しかし最新の国連報告書は、このSDGsのゴールの1つ「飢餓をゼロに」について、世界は目標からさらに遠ざかっているとコメントしました。

世界各地で食料支援活動を行っている国連機関の世界食糧計画（WFP）は、食料危機の最大の原因は紛争だといっています。2021年に紛争のために食料不足におちいていた人の数は、24の国と地域の1億3900万人。異常気象で被害を受けた2300万人がそれに続くといっています。WFPは、アフリカのエチオピア、南スーダン、イエメン、マダガスカル南部で最も深刻な飢餓が進行しているとして、餓死を食い止めるための緊急行動を世界に要請しました。エチオピア、イエメンは国内紛争と干ばつなどによって、南スーダンは紛争と連続する洪水によって、マダガスカルは長期化する干ばつによって、国民の大多数が深刻な飢餓に見舞われているのです。

世界の栄養不足人口と全人口に対する割合



き が
飢餓とたたかう国連世界食糧計画 (WFP)

2020年にノーベル平和賞を受賞した国連世界食糧計画（WFP）は、飢えや栄養不足に苦しむ人びとを飢餓から守るために食料支援を行う国連機関で、世界最大の人道支援団体です。1961年に誕生し、世界各国の拠出金や民間からの寄付を資金として、2万人以上のスタッフが世界で活動しています。

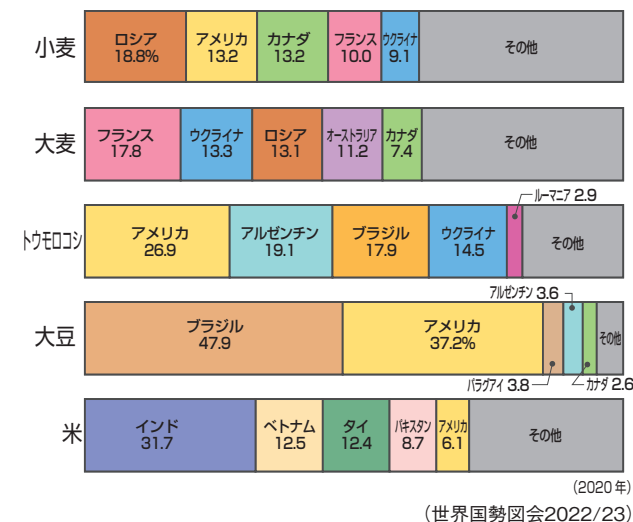
日本で食品価格が上昇

2022年春、小麦粉を原料とするパン、植物油が原料の食用油を皮切りに、日本国内で食料品の価格上昇が始まりました。麺類、マヨネーズ、しょうゆ、ハム・ソーセージ、お菓子などがそれに続きました。国内の農家がつくるジャガイモやタマネギなどの野菜もふくめ、ほとんどの食料品が大幅に値上がりしました。1990年代以降、世界の経済成長から取り残されてきた日本は、長いあいだ、食料品など生活必需品の物価は下がる傾向にありましたが、遠く離れた東ヨーロッパのウクライナで戦争の危機が高まってきた2022年1月ごろから植物油と小麦の国際価格が急上昇、これをきっかけに日本国内で食料品価格の上昇が始まったのです。

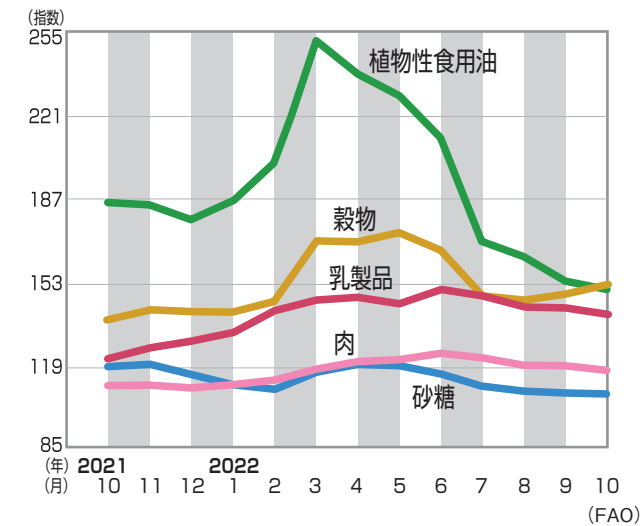
●ウクライナの戦争と日本の食品価格上昇

東ヨーロッパの国ウクライナは、日本の約1.6倍の国土面積をもち、小麦と大麦の輸出量が世界第5位と第2位、トウモロコシは第4位で、「ヨーロッパのパンかご」とか「世界の穀物倉庫」とか呼ばれてきた穀物の輸出国でした。そのウクライナに、2022年2月、国境を接する東の大国ロシアが軍隊を侵攻させて戦争が始まりました。ロシ

主な穀物輸出国



2022年の世界食料価格指数の変化 (2014～16年の平均価格を100とした比率)

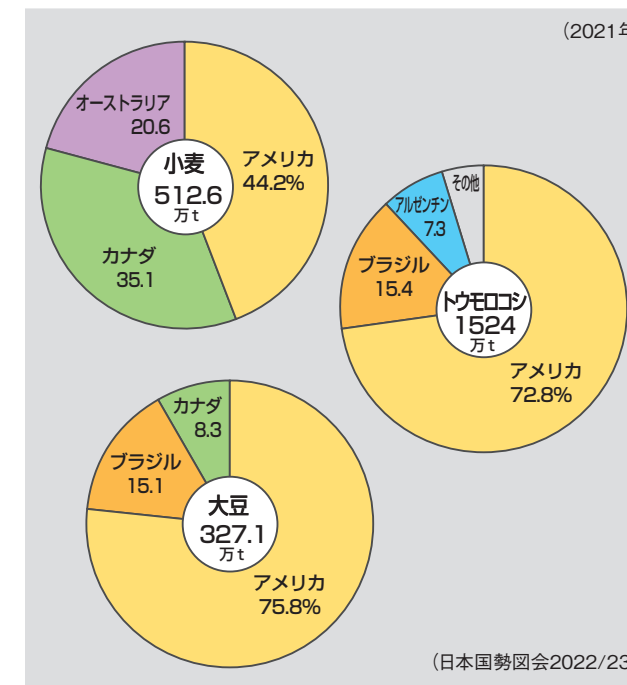


アの一方的な軍事侵攻をアメリカ・ヨーロッパ諸国・日本など世界の多数の国が非難し、武器を送るなどしてウクライナを支援したため、ウクライナは国土防衛の戦いを継続、ロシアも軍事侵略を止めようとはせず戦争は長期化しました。

ロシアがウクライナの貿易港を海上封鎖したため、ウクライナは穀物輸出ができなくなりました。さらに先進国の多くが、ロシアとの貿易を制限するようになると、ロシアが小麦の輸出量では世界第1位でもあったため、小麦の国際供給量がたちまち不足、小麦価格が急上昇しました。またウクライナとロシアは食用油の原料の1つであるヒマワリ油の半分以上を生産しています。食用油の価格も上がりました。どちらの国際価格も3か月ほどで下降にむかいましたが、日本に与えた打撃は大きく、日本の小麦粉の企業間物価指数はその後とも上昇を続けました。

一方、新型コロナウイルスの世界的流行で経済活動の停滞を見こんだ中東諸国が原油生産を制限していたところへ、世界第2位の原油産出国のロシアが戦争を始めたことで、石油価格の上昇に拍車がかかりました。石油の値上がりは、農産物や食品の輸送はもちろん、熱エネルギーとして石油

日本の穀物輸入相手国



を使う食品加工業や作物栽培にも打撃をあたえたため、パンや食用油のように海外の原料価格の上昇が影響した食品だけでなく、国内で生産される食料品の価格まで上昇させることになったのです。

このまま日本全体が食料不足や栄養不足におちいっていくということはなさそうですが、食料品の急激な価格上昇が「食料危機」とセンセーショナルに取り上げられたことから、人びとのあいだに食料危機のイメージが広まりました。

●ロシアのウクライナ侵攻が食料危機をもたらした地域

確かに、日本は国内で消費する小麦の85%程度を海外からの輸入に依存しています。そのため世界の小麦価格の上昇は、国内で使用される小麦粉の価格に直結し、パンや麺類、お菓子などを値上げさせました。

しかし日本の場合輸入小麦は、自由貿易品目ではなく、重要穀物として日本政府が買い付けを行っている農産物です。輸入先はアメリカ、カナダ、オーストラリアのほぼ3か国で、ウクライナは入っていません。ウクライナで起きた戦争の影響ですぐに日本国内の小麦粉が不足し、わたしたちが食料危機におちいるといった事態にはならないようです。

一方、ウクライナでの戦争によって小麦輸入が困難になったのは、経済力のないアフリカやアジアの開発途上国です。価格の上昇で必要量を購入できなくなった開発途上国は、国内流通量が不足して大勢の人たちが主食の小麦粉を手にもできない状態になりました。国際価格の上昇は、人道支援団体などが緊急援助用として購入する量も減少させますから、こうした国々では食料危機が深刻化しています。



戦争の影響で小麦や食用油の国際価格が上がり、日本の食料品価格も値上がりしました(2022年10月大阪府のスーパー)

(写真提供:PIXTA)